



古志原小学校だより

令和5年度No.3

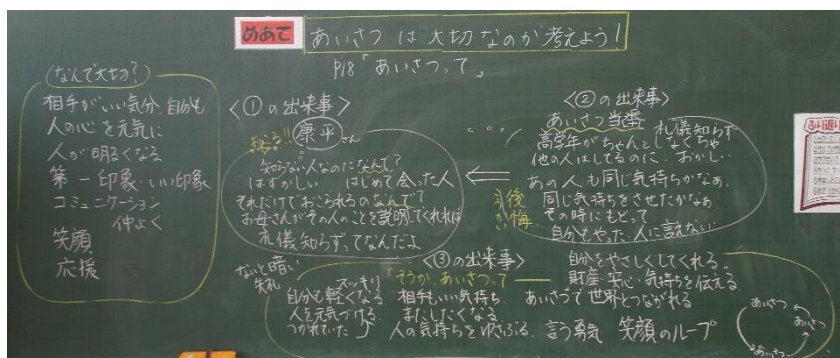
えがおいっぱい

5月9日

(文責 校長 小林 敏朗)

1学期が始まって、およそ1か月が経ちました。子どもたちも楽しみにしていた連休も終わり、これからいよいよ本格的に学習や学校行事に向けて取り組んでいきます。いろいろな時間、いろいろな場面で子どもたちのがんばりを期待しているところです。まずは明日、今年度初めての開催となる「リレーカーニバル」の子どもたちの姿に期待しています。

先日、5年2組の道徳では、あいさつについての学習をしていました。すべての時間を見たわけではありませんが、黒板に書いてある子どもたちの言葉やふりかえりのノート記述を見ると、あいさつの意味をしっかりと考えていることが伝わってきました。毎朝、昇降口前に立っていますが、しっかりと声を出してあいさつをする子が増えてきているように感じます。授業で学んだことが姿や行動として表れ、学校でも家庭でも、そして地域でもあいさつの輪が広がっていくよう指導を重ねていきたいと思っています。



令和5年度学校経営方針について

遅くなりましたが、今年度の本校の学校経営方針についてお知らせします。今年度の学校経営方針の大きな柱は「『自己肯定感』を育む・高める」ことです。自己肯定感についてはいろいろな考え方や捉え方があると思いますが、私は次のように考えています。

自己肯定感とは・・・

「自分は愛されている存在だ。」「自分は大切にされている存在だ。」「自分はここに存在していいんだ。」「自分は自分でいいんだ。」という思い。気持ち。感情。

「愛される存在」「大切にされる存在」という感情は、まずは学校・家庭・地域から愛され、大切にされる存在であることをイメージしています。このような感情は、子どもたちが今後生きていく上で最も大切な感情の一つと考えています。このような感情を育てることによって、新たなことや苦手なことにチャレンジする意欲につながったり、人を思いやる気持ちがわいてきたり、自分が自分を大切にする気持ちをもったりすることにつながると考えています。この自己肯定感について、または学校経営方針については、5月18日(木)のPTA 総会の折に少しお時間をいただき話させていただきます。学校経営方針の詳細については裏面に載せていますので、ご一読ください。

校内研修会から・・・

4月24日(月)、校内研修会を行いました。当日は國學院大學教授の杉田洋先生をお迎えし、今年度本校が研究に取り組む特別活動についての研修会を行いました。

本校では、特別活動の学級活動を切り口にして、誰もが安心して学校・学級生活ができること、自分の意見を安心して言えること、そしてみんなでその意見を受け止めることのできる「居心地のよい



学校・学級・集団づくり」を目指して研究に取り組んでいきます。杉田先生からは、特別活動、学級活動についてだけでなく、これからどのような力を子どもたちにつけていくのか、どういう人を育てていくのかなど、多くの示唆をいただきました。今後は、本校研究部を中心に「特別活動」「授業づくり」「学級経営」の3本柱を大切にしながら、子どもたちの居場所づくりに取り組んでいきます。そして、このことは先程の学校経営方針や自己肯定感にも大きくつながることと考えています。

研修会当日は、子どもたちは通常より早い5時間授業での下校としました。保護者の皆様のご理解・ご協力ありがとうございました。

松江市立古志原小学校 令和5年度学校経営について

1 学校教育目標

未来をめざす「自立 共生 創造」

《めざす子ども像》…こしばらっ子のあいことば

「えがおいっぱい」

- 本 気（徳）…何事にも真剣で、人を大切にする子
- やる気（知）…自ら考え、表現する子
- 元 気（体）…たくましい体づくりに励む子

2 学校経営方針

「自己肯定感」を育む・高める

- 子どもたちが安心・安全に生活できる学校・学級づくり
- 日々の授業づくりを中心に据えた学校・学級づくり
- 家庭や地域と連携し、信頼される学校・学級づくり

3 学校経営方針の具体

○子どもたちが安心・安全に生活できる学校・学級づくり

- ・子どもと向き合う（聴く・受容する）
- ・居心地のよい学級・学校（安心感のある居場所づくり）～ルール、リレーションの確立
- ・学年部で学年全体の子どもたちを支える・育てる
学年の大きな柱を 学年担任制（ローテーション道德・朝礼・終礼・給食など）
- ・学校内外の安全管理・安全指導の徹底（食物アレルギー対応、事故の未然防止等）
- ・子どもたちの人権を大切にする教育の推進（全ての教育活動を通じて人権教育を基底に）
- ・安全でいじめのない集団づくり ～我々のアンテナを高く、そしてアンテナを常に磨く～
- ・子どもたちのがんばりや伸びを認める、誉める（結果よりも過程に目を向ける）
- ・子どもたち本人や家庭状況等も含め、児童理解に努める（困り感に寄り添う・背景に目を向ける）
- ・支援や個別の配慮を必要とする児童がいることを前提とした学級経営・授業づくり
- ・子どもたちのつながりを大切にした縦割り班活動、学校行事（関わる、折り合いをつける、憧れをもつ）

○日々の授業づくりを中心に据えた学校・学級づくり

- ・授業づくり「わかった!」「できた!」の声が響く学校・学級づくり
- ・主体的・対話的で深い学びの授業づくり～教師が話す授業から子どもがしゃべる授業へ
- ・「不易」（道德教育、図書館活用など）と「流行」（ICT活用など）の両輪を大切にした教育の推進
- ・特別支援教育の視点からの授業づくり
- ・日々の授業づくりを通して、子どもと共に成長する教職員集団（常に学びつづける姿勢）
- ・校内研修の充実・自己研修の推進

○家庭や地域と連携し、信頼される学校・学級づくり

- ・保護者の言葉をしっかりと傾聴する姿勢
- ・保護者と共に考える姿勢
- ・自己肯定感を高めるため、子どものよさや伸びを伝える（日々の電話・連絡帳、学級通信、学校だより等）